

平成 29 年度

事業所名：グループホーム あやめ(1階)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100246		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム あやめ (1階)		
所在地	盛岡市神子田町8-27		
自己評価作成日	平成 29年 9月 7日	評価結果市町村受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&lgvosyoCd=0390100246-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 10 月 4 日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

体操やスクワットを取り入れ筋力低下防止に努めている。カラオケを導入しており歌ったり音楽に合わせて体操するなど楽しく運動できるように心掛けている。一人一人の性格や特性を見極めるように努めその人に合った支援を考えている。毎月の会議の中で勉強会や3ヶ月毎の目標を決め介護技術の向上や事故防止に職員一丸となって取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二階建て2ユニットで明るくゆとりのある事業所である。周辺は住宅街で商店等も多く、便利な環境である。株式会社が運営主体で他に通所介護事業等も運営しており、これらの事業所との連携も図られ、利用者や家族の信頼、安心感を得ている。地域との交流や協力の獲得に前向きに取り組んでおり、事業所内のコミュニケーションや利用者、家族との連携、連絡も良く取られている。職員は日常のケアサービスを通じて運営理念の実践に努めており、また、内部の研修等による研究、意識の共有にも積極的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

〔評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会〕

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム あやめ(1階)

2 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内に掲示し介護に迷った時の指針となるようにしている。会議で理念を再確認したり本人はどう思っているかを話し合いながら実践につなげるようにしている。	常に利用者に寄り添うことを基本理念として廊下に掲示するとともに、職員会議等の場で必要の都度再確認を行い、意識の共有に努めながら、理念に基づいた実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員となり運営推進委員の協力を得ながらホームの行事に参加して頂いたり、地域の行事に声をかけて貰ったりしている。また、子供会の行事や秋祭りの時は地域の方々がホームの前まで足を運んで下さっている。	地域の自治会に一員として参画しており、お祭りなど各種の行事に参加している。また敬老会など事業所の行事にも地域からの参加があり、双方向の交流がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に招待する等して普段の関わり方を見て頂いたり、運営推進協議会に於いて情報提供する等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催している。運営推進会議の中で避難訓練時に懐中電灯の電池確認も合わせて行くと良い、とか火災時は協力体制を頂けるようアパートの大家さんから住民に回覧してもらう等アドバイスを頂きながら改善を図っている。	二ヵ月に一回開催し町内会長や民生委員、地域住民等が出席して意見交換している。火災時の近隣協力などについて提言のあったことを事業所の運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定や生活保護受給者の受け入れ・権利擁護の利用者等連絡を取りながら支援している。市町村の集団指導を受けたり日頃の疑問等は問い合わせをしている。	市の担当者からは介護認定のことだけでなく、生活保護、権利擁護など、ケアサービス全般について連絡、指導を得ている。日常の連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修で理解を深めている。玄関の施錠についても会議で話し合いを重ねている。地域が「鍵かけモデル地区」である事も考慮しながら入居者が閉塞感を感じずに生活できるように考えている。	防犯上の理由で玄関には施錠しているが、利用者の外出願望を把握しできるだけ外出するようにしている。ふらつきがある利用者の事故防止のためセンサーマットを使用している。身体拘束をしないという原則を内部研修等で確認し合っており、実践につなげている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について内部研修で理解を深め、職員同士で声を掛けあえる環境を作りながら虐待に至る前に防止できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者が対応している。成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用している入居者が数名おり、連絡を取り合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の疑問点や心配事を聞くようにしており納得したうえで契約できるよう支援している。また、料金改定の際には文書や口頭で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の際に日々の記録に目を通して頂いたり電話や口頭で暮らしぶりを家族に伝え生活についての意見や希望がないか聞くようにしている。七夕の短冊に書く願い事や日々の暮らしの中で利用者の希望を聞き出すように努めている。	家族の意見、要望は訪問時や電話でいつでも受け入れている。利用者の思いについても七夕の短冊に書かれた願い事等から意向を察しケアサービスに生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送り時のみではなく普段から状況を聞くようにし職員が自らの思いや考えを表せるようにしている。	定例の会議、打ち合わせや日常の仕事を通じて職員の意見、要望を把握している。各利用者の留意事項を記録し個々の書類引き出しに整理しておくことなどの提案があり、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会に職員が所属するとともに、利用者の担当を持つことで役割や責任を持って働けるようにしている。給与基準や処遇改善計画書は職員間で回覧している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議の際に内部研修を開催している。また、経験や技術にあった外部研修への参加を勧めている。資格取得についても積極的にバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に所属し、研修会に参加したり同系列のグループホームと意見交換する等、介護に活かせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中から困りごとや不安ごと、気になっている事を聞き出すように努め、出来る限り見学に来ていただきホームの様子を感じ取って頂いている。本人にとって必要なサービスが何かを確認しながらサービスにつなげる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から話を良く伺うように努めている。入居後もあらゆる機会を捉えながら心配事や要望等の把握に努め安心してサービスを利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を伺った上で本人や家族にとって今必要なサービスが何かを一緒に考えている。場合によっては他サービスの情報を提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来る事・得意な事の把握に努め、出来ることは行って頂きながら役割を持って生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援の他、不安な時は電話で話をしていただく等家族の力を大切にしている。行事と一緒に参加して頂く等して家族と過ごす時間も大切に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との交流が途切れる事のないよう電話や手紙の取次ぎや子供時代の町を散歩する等支援している。	家族との連絡体制ができており、随時、来訪がある。かつての同僚等の訪問もある。以前利用していた系列のデイサービスに本人の希望で顔を出したり、馴染みのある町を散歩するなど、従来の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を見ながら助け合いながら生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も面会に行ったり家族に様子を伺う等している。また、転居先には情報を十分に伝えホームでの生活をなるべく継続できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族から意向を聞き取ったり生活歴から本人の好みを探り本人がどのような事を望んでいるのか考えている。表情や行動からも思いを汲み取れるように努めている。	利用者に寄り添い、表情、行動などから希望や意向を感じ取るようにしている。年々、思いを表すことが難しくなっているが、家族と情報交換したり、スタッフで相談等をして方向を見出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や会話の中でどのように生活してきたのか把握するようにしている。また、サービス利用の経過については家族やケアマネから情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活のあらゆる場面を捉え本人がどうしたいのか、今出来ることは何か？等把握するように努めている。また、職員が感じたことや捉えた情報は共有し実践に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のペースで現状を見直しケアプランの立案を行っている。面会やケアプラン発送時に家族の意見を伺い介護計画に活かせるように努めている。	担当制で利用者をみており、毎月の職員会議で話し合い、利用者の状態を基本に家族の意見も参考にし、ケアマネージャーが中心となり事業所のスタッフで検討して三ヶ月に一回、ケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況を日誌に記録して情報共有をしている。また、会議の際に職員の気付きを持ち寄り介護計画に取り入れている。3ヶ月毎でなくても状況に応じ柔軟に支援内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせてデイサービスに通ったり通院支援や買い物支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人で外へ出て行かれる方に関しては家族の了解の下事前に警察へ情報提供をしたり、運営推進協議会の方々に利用者と触れ合ってもらって顔を覚えていただくことで地域の中で安心して生活できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、家族と協力しながら受診対応している。日々の生活状況を伝え必要な医療が受けられるよう配慮している。家族が受診する場合は生活状況を手紙にして渡し必要な情報を提供するようにしている。	かかりつけ医の受診もあるが市内の協力医による訪問診療を受診している方が多い。利用者や家族の希望により受診を支援している。家族には本人の状況を情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で気付いたことは報告し合い記録に残し受診時の大切な情報としている。また、判断に困るときは電話や通院にて主治医・協力医・看護師に相談している。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や退院時の連携のみではなく、お見舞いに行ったり家族と情報共有する等して現状の把握に努めている。病院の相談員と相談しながら早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の意向確認の他、状態の変化があるごとに家族・主治医と相談している。話し合いの結果は職員に伝達し家族や本人の意向を把握したうえで支援できるようにしている。	看取り方針を策定しているがこれまでの事例はない。重度化した場合の対応などを入居時に家族と話し合い、その後も随時相談している。所内勉強会で看取りについて意識の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、職員は初期対応できるようマニュアル化しており定期的に勉強会を行っている。実際の事例が起きた場合は毎月の会議で報告し合い対応方法を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には運営推進員の方にも参加して頂いている。水害時のマニュアルも市やグループホーム協会の情報を参考にしながら作成した。今後マニュアルを基に水害時の避難訓練も実施していきたい。火災の際の近隣住民の協力体制についてはアパートの大家さんから回覧にて周知して頂いた。	昼間、夜間の避難訓練を行っており、水害時の対応マニュアルも作成している。災害時には運営推進会議のメンバーである地域の役員との協力体制を築いており、近隣住民の協力についても地域に回覧し、その周知に努めている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その人が分かる言葉で声掛けするようにしている。特に排泄時や入浴時などは声掛けに留意している。	利用者の人格の尊重という基本理念に基づいたケアを実施しており、排泄について特に留意している。プライバシーに配慮しながら一人ひとりに寄り添い、声掛けも一つ一つの言葉を工夫しながら丁寧に行い、本人の立場に立ったサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で多く会話をしその中から思いや希望を聞き取れるようにしている。また、行動や表情からも汲み取れるよう観察し、職員間で情報共有を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで居心地良く安心して過ごせるように心掛けているが、職員の時間に合わせてもらっている事もあると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む服や色を把握し、その人らしいおしゃれが出来る様に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の出来る事を把握し食器拭き・調理の下準備を手伝って頂いたりしている。時には食材切やお菓子作り等をみんなで楽しみながら食事が出来るようにしている。	食事前には必ず嚥下体操を行い、テレビを消して職員と共に美味しく食べている。食事の準備、片づけに利用者も一部、参加している。食事の雰囲気も和やかであり、食欲も進んでいる。お正月の合同食事会には全員で出掛け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食時前には軽運動・嚥下体操を行ったりお茶を飲んで頂いている。一人一人に合わせた量や形態にする等して安全においしく召し上がれるよう心掛けている。必要な摂取量を一日を通して確保できるようチェック表を用いて把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った声掛けをしジェスチャーを交える等しながら口腔内を清潔に保てるよう支援している。本人だけでは不十分な場合はブラッシング等介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のペースの他、時間を見ながら声掛けし失敗のないように配慮している。見守りや介助等個人に合わせて対応している。	排泄チェック表と其々のしぐさ等で、トイレ誘導を行い、現在17名中11の方が布パンツとパットで過ごしている。日中は布パンツの方も何名かは、夜間リハビリパンツにかえて休まれている。便秘予防の為にホールで体操をしたり水分を十分摂取するように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操で体を動かすと共に、水分をしっかりと摂れるように心掛けている。ゼリーを用いる等して一日を通して水分摂取量を確保できるように工夫している。便秘時は飲み薬や坐薬を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望時はいつでも入浴できる準備はしているが大体の方は声を掛けて浴室へお誘いしている。入浴を嫌がる入居者については時間をずらしたり本人がスムーズに浴室へ行けるタイミングを見計らって声掛けするようにしている。	入浴を嫌う利用者もいるので定期的な入浴を強制せず、それぞれの意向による入浴、部分浴を支援している。週に2、3回は入浴できるようにしている。入浴時歌を歌ったり、時に本音トークの場となる事もあり、リラックスタイムとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休みたい時は自室で横になれるようになっている。夜眠れるように日中は運動やお手伝い等で体を動かしていただいている。また、夕方からは職員の動きや声のトーンにも配慮し穏やかな流れの中で入眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更がある時は申し送りをしお薬説明書で確認している。薬の変更があった時はいつも以上に注意深く観察をしている。ふらつきや下痢症状等変化があった時は主治医や看護師・薬剤師に相談し指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る力や興味に合わせ食器拭き・モップ掛け・料理の下準備・片付け・塗り絵・パズル・歌等々を提供し役割と楽しみのある生活を送れるように心掛けている。天気の良い日は戸外で気分転換を図ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの訴えは少ないが強い帰宅要求がある時は戸外に出て気分転換を図ったり、天気の良い日は外へ出掛けるようにしている。花火大会・花見・紅葉・朝市への散歩等に出かけている。	希望者には事業所周辺の散歩、外食や地域行事の見物、事業所としての行事企画等により、随時、外出支援を行っているが、冬場には寒いと言って出たがらない方も多い。また、二階利用者の外出が少ない。	随時、利用者の状態に即した外出支援に努めているが、商店街が近い等の賑やかな周辺環境を生かし、冬場などの外出支援をさらに工夫することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のお預かりはしていないが、行事等で買い物をする際はお金を渡し支払いを出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴え時や荷物が届いた際は利用者の気持ちを汲み取りお礼の電話を掛ける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や温度・湿度は利用者に不快にならないように調節している。季節の花を飾ったりレクでは季節感のある装飾作りをして共有の場に飾り季節を感じながら生活できるよう心掛けている。	廊下や食堂ホールなどの共用空間は明るくゆったりとしたスペースとなっており、また、手作りの飾り物が掛けてあるなど、全体的に清潔で和やかな雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファや畳の間があり好きな場所で寛いだり仲の良い入居者同士で話が出来様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファを持ち込み居心地良く過ごせるようにしている。また、位牌を持って来ている方もいらっしゃるその方の習慣を大事にしている。	居室には使い慣れたソファや部屋によっては大事な位牌等が置かれてあり、利用者の思いが尊重されている。また、清潔な環境となっており、居心地の良いその人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには名前を貼ったりトイレには「べんじょ」「といれ」と2つの表示をしたりして行きたい場所へ行ける様に工夫している。		